

三島市郷土資料館企画展

絵はがきでみる三島



絵はがき「三島町市街」を加工(三島市郷土資料館所蔵)

平成27年10月10日(土)～12月13日(日)

三島市郷土資料館

三島と富士山

三島から見える富士山は市民にとってなじみ深く、その恵みである湧水とともに現在も三島市民の誇りです。三島を訪れた人々の目も楽しませてきた富士山は絵はがきのモチーフとしても人気のあるもので、市内さまざまな地点から望む富士山の様子を写した絵はがきが残されています。

同じ富士山を写した絵はがきでも、撮影場所によって、牧歌的な風景から町のにぎわいを感じるものまで、三島の多面性を象徴するように多彩な構図になっています。



関守敏氏所蔵

「東海道三島君ヶ沢富士」

(明治末～大正初期)

現在の三島市玉川付近から望む富士山。モノクロ写真に彩色をほどこしたもので、淡い色彩が幻想的な一枚です。



関守敏氏所蔵

「三島風景 新町橋ヨリ富士ヲ望ム」

(大正中期～昭和初期)

大場川に掛る新町橋（日の出町東側）の橋脚の隙間よりのぞく富士山。江戸時代、この橋は三島宿の東境にあたり、三島の玄関口でした。



関守敏氏所蔵

「三島風景 水上ヨリ富士ヲ望ム」

(大正中期～昭和初期)

現在の白滝公園（一番町）付近から望む富士山。桜川を手前に置く構図は富士山の恵みの豊かさを感じさせ、まさに水の都、三島らしい一枚です。



関守敏氏所蔵

「三島町 郊外ノ富士」

(大正中期～昭和初期)

木立は源頼朝が三嶋大社参詣の途上でまどろんだという間眠神社（東本町）です。手前の道は頼朝の代参として三嶋大社へ詣でる「在庁」も通った道で、在庁道または頼朝道と呼ばれていました。



関守敏氏所蔵

「伊豆三島小浜の富士」
(大正中期～昭和初期)

現在の三島駅付近からの富士山。昭和9年(1934)に現在の三島駅が開業する前の様子です。町外れにあたり、木々が生い茂っていた様子がわかります。



三島市立図書館所蔵

「三島水景 源平川の景」(年代不詳、戦前)

現在の三島市南田町、三島郵便局西側あたりから見た富士山です。この印象的な松から、地元の人々はこのあたりを「一本松」と呼んでおり、今でもバス停の名前にこの名を留めています。



関守敏氏所蔵

「三嶋名勝 旧李王家御別邸」(昭和初期)

現在の楽寿園南口付近と富士山。同地は大正元年(1912)から昭和2年(1927)まで旧朝鮮王族である李王家の所有でした。写っているのは敷地の南側にあった当時の正門で、現在は日の出町の妙行寺に移築されています。

— 作品になった三島の富士山 —

富士山は三島を描いた絵画など美術作品のモチーフとしても多く残されています。



くろやなぎたいすい こはまおか
畔柳對水画「小浜丘之図」(明治23年)

小松宮別邸が造営される前に描かれた現在の楽寿園付近一帯の絵画です。満々と水をたたえた小浜池とともに富士山が描かれています。



野口三四郎作「五月の賦」(昭和初期)

三島出身の人形作家による、五月の風景を描写した作品です。こいのぼりたなびく空の向こうには富士山が配置され、作品に奥行を与えています。

三島のにぎわい

絵はがきには、三島の街中の賑わいや今では失われてしまった建物や光景など、戦前の三島の様子を知ることができる貴重な写真が多く使われています。



関守敏氏所蔵

「官幣大社三島神社全景」(明治時代)

参拝記念のスタンプが押された一枚。鳥居左の石柱には「官幣大社三島神社」とあります。



関守敏氏所蔵

「三嶋名勝 三嶋町市街」

(大正中期～昭和初期)

三嶋大社から広小路方面を望む一枚。男性が着用しているカンカン帽は大正から昭和初期にかけて大流行したものです。



「官幣大社三島神社祭礼 大中島ノ山車」 (明治末～大正初期)

夏祭りの様子。沿道に飾られたちょうちんや通りを埋め尽くすほどの人出に祭りのにぎわいを感じます。

右上：「三島町水上納涼場水明ホテルの全景」 (明治末～大正初期)

右下：水上でのボート遊び

(大正中期～昭和初期)

現在の白滝公園付近は「水上」と呼ばれ、夏には天然のプールとして水遊びやボート遊びの人々でにぎわいました。スタンプの「駿豆鉄道三島町駅」とは現在の三島田町駅です。



関守敏氏所蔵



関守敏氏所蔵

「三島町市街」(明治末～大正初期)

現在の大社町西交差点付近から広小路方面を写した一枚。右手前は明治27年(1894)創業の三島銀行です。



関守敏氏所蔵

「三島市街」(昭和初期)

左とほぼ同じ場所から撮影したもの。北伊豆震災からの復興後で、通りが拡幅されています。



関守敏氏所蔵

「三島名所 市ヶ原大社前」 (大正中期～昭和初期)

三嶋大社前の下田街道の様子。左奥の大きな建物は明治21年(1888)に本店を置いた伊豆銀行と思われます。



「(三嶋名勝) 三島市街」 (大正中期～昭和初期)

現在の三島田町駅から大通りに向かう通り。三島で最も広がったため「一等道路」と呼ばれていました。



「^{えびす}蛭子袋発売中店頭ノ光景」 (明治40年～大正初期)

明治40年(1907)、三嶋大社のえびす講に合わせて売り出された市ヶ原の呉服店綿文の福袋「蛭子袋」を買おうと人々が殺到、警察も出動する騒ぎになりました。



関守敏氏所蔵

「^{せんしょう}伊豆三嶋戦捷記念館」 (明治39年～大正初期)

三嶋大社東隣(現在の駐車場付近)にあり、共進会を始め様々な催事が行われていました。



左：「(豆州山中名所) 芝切地蔵尊」

(大正中期～昭和初期)

毎年7月19日に行われる山中新田の芝切地蔵尊の祭では、小麦まんじゅうが有名で、賽銭とまんじゅうの売り上げで村と学校の費用が賄えると言われたほどの人気だったそうです。



「極東練乳株式会社三島新工場」

(大正中期～昭和初期)

花島兵右衛門によって三島に設立された花島煉乳場を前身とする工場で、現在の市営南二日町住宅の場所にありました。ここで製造されていた練乳「金鶏ミルク」は国内産の中でも高い品質で知られ、国内外で販売されたほか軍隊にも納入していました。



関守敏氏所蔵

「伊豆三島飛鷺青楼側面の景」

(明治末～大正初期)

源兵衛川沿い（現在の芝本町、ヒロセパーク辺り）にあった料亭。明治から大正の頃に繁盛しました。



関守敏氏所蔵

上：「三島町三島大社神園内

魚半亭（其三） 離レ蓮月亭」

(明治末～大正初期)

三嶋大社西側にあった料亭。飛鷺青楼とともに三島で一二を争う料亭として有名でした。

左：「三島仲島新地 萬字楼」

(大正中期～昭和初期)

三島には宿場町の名残で戦後まで遊郭がありました。大正14年（1925）には5軒の遊郭が集まって三島新地を形成しましたが、昭和31年（1956）の売春防止法成立によりその幕を閉じました。



関守敏氏所蔵

洋画家の見た三島



栗原忠二肖像



三島の名所・旧跡などを集めた絵はがきセットは数多く発行されていますが、こちらは洋画家である栗原忠二が撮影したというちょっと変わり種です。

栗原忠二は明治19年（1886）三島で生まれ、東京美術学校（現在の東京藝術大学）で絵画を学んだのちイギリスへ留学しました。風景画を得意とし、英国王立美術家協会準会員に推薦されるなど、日英で活躍した画家です。

「栗原忠二撮影 三島名勝」4枚入り（年代不詳）（関守敏氏所蔵）



「三島大社（其一）」



「三島大社（其二）」



「三島大社（其三）」



無題

この一枚のみ色調が違っており、裏面のデザインも異なることから他シリーズの絵はがきが混入した可能性があります。

記念絵はがき

日本で絵はがきが流行したきっかけは、明治37年（1904）発行の日露戦争戦勝記念の絵はがきと言われており、今も昔も人気が高い記念絵はがき。色使いやデザインの美しさを楽しむだけではなく、かつて何が祝われ、どんな行事が行われていたのかを知る歴史資料としても貴重なものです。三島でも鉄道開業、天皇の行幸などさまざまな記念絵はがきが発行されています。

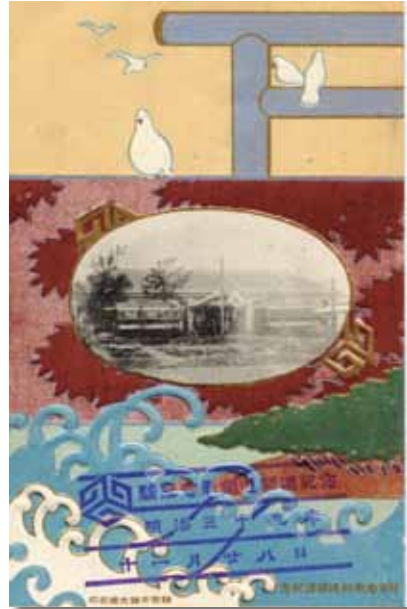


上段2枚：「駿豆電気鉄道開通記念絵葉書」
（2枚1組／明治39年11月28日）

三島－沼津間の路面電車が開通した際の記念絵はがきです。県内最初の電車で「チンチン電車」と呼ばれ、昭和38年（1963）まで市民の足として親しまれていました。

右：「東海道線三島新駅」（昭和9年12月1日）

丹那トンネルが開通し、旧来の「三島駅」は下土狩駅となり、現在の三島駅が完成しました。左上には記念のスタンプが押してあります。



関守敏氏所蔵



関守敏氏所蔵



野戦重砲兵第一旅団完成祝賀記念絵はがき（3枚1組のうち2枚／大正9年11月28日）

関守敏氏所蔵

大正8年（1919）から翌年にかけて野戦重砲兵第二・第三連隊が幸原（現在の文教町）に移転し、連隊を束ねる第一旅団司令部が置かれました。戦後は解体され、学校等が立ち並びましたが、現在も連隊の門や衛兵哨舎などが残されています。



関守敏氏所蔵

「^{せんしゅう}田方郡戦捷記念館開館式絵葉書」

(2枚1組のうち1枚/明治41年7月1日)

日露戦争を追想し後世に伝えるために作られた、木造洋風二階建の公会堂です。館内には戦没者の肖像画などが飾られていました。



関守敏氏所蔵

**赤十字社田方郡委員会・
愛国婦人会幹事会総会記念絵はがき**

(明治40年1月20日)

三島高等女学校で開催されたもので、参加申し込み2500名以上、前後3日間は鉄道が割引になるなど大規模な行事でした。



関守敏氏所蔵

大礼記念絵はがき (大正4年11月10日)

源兵衛川沿いの風景を写した絵はがきにスタンプを押したもの。左の建物は料亭飛鷹青楼です。大正天皇即位大礼時のもので、大正4年11月10日の日付と「万歳」の文字が入っています。



関守敏氏所蔵

「行幸記念絵葉書 第壹輯」(三島高等女学校)

(3枚1組のうち1枚/昭和5年6月3日)

昭和天皇が静岡県に行幸され、視察先の一つであった三島高等女学校では校長室、職員室、応接室、図書室の修繕を行うなど、入念な準備で天皇を迎えました。



関守敏氏所蔵

第一回静岡県産牛共進会記念絵はがき

(2枚1組のうち1枚/明治42年9月)

県内産牛の品評会で、第1回が三嶋大社境内で行われました。3日間の会期中、万国旗などで飾られた会場には三島近隣のみならず県外からも観覧者が訪れ、大盛況でした。

伝える絵はがき

テレビや写真雑誌などがない時代、絵はがきはおみやげ品や記念品として発行されただけではなく、社会のできごとを伝える媒体としての役割もありました。災害や事件が起こると臨場感のある場面が絵はがきとしてすぐさま販売され、全国に流通しました。三島で起こった災害の様子も絵はがきに記録され、生々しい現場の様子を今に伝えています。

—関東大震災—

大正12年（1923）9月1日、相模湾沖を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生し、東京・神奈川を中心に甚大な被害をもたらしました。静岡県東部も震度6の揺れに襲われ、三島は家屋全壊13軒、半壊13軒、死傷者5人の被害がありました。



関守敏氏所蔵

「(関東大震災) 静岡県三島町の惨状」



関守敏氏所蔵

「(関東大震災) 東海道三島町の惨状」

—北伊豆震災—

昭和5年（1930）11月26日、伊豆半島北部丹那盆地附近を震央とするマグニチュード7.3の直下型地震が発生しました。三島でも多くの死傷者がでて、現在の三島市域全体で家屋全壊336軒、半壊1196軒、死傷者140人という被害が発生しました。



関守敏氏所蔵

「(伊豆大震災) 三嶋町の惨状」



「(伊豆大震災) 三島町久保町附近の惨状」



「伊豆大地震 大場」

関守敏氏所蔵



「(伊豆大震災) 大場の大被害 焼跡の惨状」



「(伊豆大震災) 三島町に於ける軍隊の活動」



「(伊豆大震災) 三島町役場に於ける救護本部及青年団の活躍」

大きな被害を被った三島では、震災後復興事業が行われました。駿豆鉄道（現在の伊豆箱根鉄道）は震災2日後の11月28日には伊豆長岡駅まで開通し、12月2日には全線開通となりました。旧東海道の大通りは3間3尺（約6メートル）から現在の幅15メートルに拡幅され、沿道の商店は新しく建替えられました。関東大震災後の東京復興の際に多く見られた、木造建築の表面を銅板やモルタルなど耐火性の強い素材で覆い、装飾を施した「看板建築」と呼ばれる建物が三島でも多く建てられました。これらの建物の一部は現在でも三島の中心部に見ることができます。



「(伊豆の三島) 市街久保町通り」
(昭和6年～戦前)

関守敏氏所蔵

拡幅された道の両側に看板建築が並んでいます。

今も残る看板建築の一部



渡辺漆器店
(三島市大社町)



カワツネ商店
(三島市中央町)



関守敏氏所蔵

「行幸三周年創立三十周年記念絵葉書
静岡県立三島高等女学校」
(3枚1組のうち／昭和8年)

平成27年度企画展 絵はがきでみる三島

会期 平成27年10月10日(土)～12月13日(日)

発行日 平成27年10月10日

会場 三島市郷土資料館

発行 三島市郷土資料館

三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 055-971-8228

FAX 055-971-6045

・本展及びパンフレットの企画・編集は当館学芸員笹山曜子が担当した。掲載写真のうち所蔵者の明記がないものは当館所蔵資料である。
・絵はがきのうち内容から年代が確定できるものを除いては、絵葉書資料館ホームページ (<http://www.ehagaki.org/>) を参考に推定年代を記した。